



第43巻 第3号

史学・地理学・考古学

イングランド国教会成立に関する一考察 植村 雅彦 (1)

ワイマール共和制末期における
農民層の政治的動向 中村 幹雄 (33)

——ジュレスヴィヒ・ホルシュタイン州の場合——

一九一九年の日中関係 臼井 勝美 (61)

干拓と漁民(上) 由比 浜省吾 (81)

——児島湾の場合——

研究ノート

井上毅の思想的性格 梅 溪 昇 (106)

清仏戦争期における日本の対韓政策 彭 澤 周 (124)

トルファン発見田土文書の性質について 宮 崎 市 定 (144)

——『敦煌吐魯番社会経済資料』(上)を読む——

書 評

杉山 博著：庄園解体過程の研究 三 浦 圭 一 (154)

紹 介

横川末吉著：大忍庄の研究 御蘭生翁甫著：大内氏史研究
 菊田太郎著：東海道守口宿・守口駅 三木与吉郎編：阿波藍譜（栽培製造編）

学界消息・京都大学卒業論文題目・例会予告

史 学 研 究 会

京都大学文学部内

京都大学文学部東洋史研究室
東洋史研究会

その周辺の国衙百姓が重要な位置を占めていることは、史料的にも明らかである（『備中国新見庄史料』所収、一七五号文書）。隣接の諸庄園及び守護領・国衙領との関連の上に、ある特定の庄園を問題にすることは、現在研究の立ち遅れている地域的な分業圏を追究しゆたかな中世史をあつづけるための課題であらう。

また国衙領は室町期に入れば、ほとんど守護の支配に属し、国衙領としての独自の性格は平安・鎌倉時代の比ではないにしても、庄園制一般を考える場合には除いてはならないことである。すなわち杉山氏が庄園解体過程の研究にされたのは東寺領・久我家領庄園である。これらの庄園研究には国衙領の問題を併考する必要はないとしても、たとえば鎌倉時代におこり、室町時代に最盛期をむかえた禅宗五山派寺院の所領支配、またそれに代つて出てきた大徳寺・妙心寺派の寺院、これは何を基盤にして出て来たのであらうか。これが果して庄園領主と呼びうる内容をもつものであるかどうか問題になるが、その繁榮の一因には国衙領の帰趨が関係していると思われるし、この問題を解明されるところに、庄園史研究の今後の課題があるように思う。

規定の枚数もかなり超過した。本書を完全に読み切つていないための誤りも多く、当たらぬ紹介や批判のあることを恐れるものがあるが、書評をもつて氏の学恩に応えんとする私の微志を汲みとつていただければ幸いこの上ないことである。（A5判二六〇頁、昭和三十四年九月 東京大学出版会発行、定価四五〇円）

執筆者紹介

植村 雅彦	岡山大学助教
中村 幹雄	京都大学助手
白井 勝美	外務省外交文書編纂室勤務
由比 浜省吾	岡山大学助教
梅 溪 昇	大阪大学助教
彭 澤 周	京都大学講師
宮崎 市 定	京都大学教授
三浦 圭 一	京都大学大学院博士課程単位修得者

史学研究会例会予告

六月例会 六月四日（土）午後一時出発
見学会

花の寺—三鈷寺—光明寺—向神社
参加会費二五〇円

（講師交渉中）

○緑の京都西郊に、あまり知られていない貞観の彫刻や浄土教の遺跡を訪ねることにいたします。奮つて御参加下さい。なお、参加御希望の方は、前以て御申込願います。

七月例会 七月二日（土）午後一時より

於京都大学楽友会館

新発見の高句麗古墳

有光教一氏
（他一名交渉中）

四国吉野川流域平野の農業地理学的考察

応地 利明

東海陶業地域における四日市万古陶磁器工業について

大津 一郎

探検の歴史から見たチベットの地理について

酒井 敏明

生駒山脈東西両面における農業

中村 文雄

明治前期業煙草生産の地理学的検討

林 俊正

紀北の織物工業

舟場 正富

我が国製塩業の地理学的考察

前田 毅彦

〔修士課程〕

明治前期町村制度の地理学的研究

井戸 庄三

近世初期における村落の復元

大脇 保彦

土佐国検地帳を通して

小野 菊雄

地動地球説よりみた近世日本地理学の意義

坂本 英夫

水田単作地帯における海岸砂丘地の農業

越後平野海岸砂丘地の場合

長野県における労働力需給の地理学的考察

塚田 秀雄

地方政治地域と経済的自立性

一 視 点 上野市を例とする機能地域研究の

成田 孝三

〔博士課程単位修得者研究発表題目〕

社会領域と結節地域

山澄 元

考古学専攻

〔修士課程〕

スキタイ文化の基本的諸問題

田中 琢

〔博士課程単位修得者研究発表題目〕

ウル「王墓」の被葬者について 小野山 節

会費納入についてお願い

最近、各位からの会費納入が思わしくなく、ために財政的に重大な影響をうけています。滞納のある方は至急御納入下さいますとともに、できるだけ前納下さるようお願いいたします。

なお、御納入会費に対し、必要とされる方以外には、領収書は特に差上げませんが、「お知らせ」にその旨記入、捺印いたしておりますから、お確かめ下さい。

史 学 研 究 会

振替京都都五一五五番

編集後記

青葉のにおいを含んださわやかな風の吹きたる季節になりました。本号のお届けが印刷所の都合で、常よりはいささかおそくなりました。

本号は期せずして近代史を取扱われた論考が集中いたしましたので、蘭田氏の続篇は次号にまわさせていただきますになりました。蘭田氏並に期待していらつしやいました方々に深くお詫び致します。

梅雨、そして夏、暑くなつてゆきますが、会員の方々の御精励の結晶がどしどしと編集机上に集中せんことを期待して居ります。

(横山 裕男)

一九六〇年四月二五日印刷 定価一八〇円
一九六〇年五月二日発行

史 林 (第四三巻 第三号)

発行所 京都市左京区唐田本町 京都大学文学部内

史 学 研 究 会

理事長 宮崎市定
編集主任 赤松俊秀
振替京都都五一五五番
京都市下京区西七条御所ノ内東町三九

印刷所 中村印刷株式会社

THE SHIRIN

or the

JOURNAL OF HISTORY

Vol. XLIII, No. 3

May, 1960

CONTENTS

Articles :

- A Study on the Establishment of the Anglican Church
..... *M. Uemura* (1)
- Political Trend of Peasantry at the End of the
Weimar Republic..... *M. Nakamura* (33)
- The Sino-Japanese Relationship in 1919.....*K. Usui* (61)
- Reclamation and Fishermen..... *S. Yuihama* (81)
—in the case of *Kojima* Bay 見島湾 in the
Okayama 岡山 prefecture —

Notes:

- Kowashi Inoue's* 井上毅 Character of Thought*N. Umetani*(106)
- The Japanese Foreign Policy during the
Sino-French War in 1884.....*Tzer-chou Peng*(124)
- On Nature of the *t'ien-t'u* 田土 Documents
Discovered in Turfan *I. Miyazaki*(144)

Book Reviews and News

Published

by

THE SHIGAKU KENKYUKAI

(The Society of Historical Research)

Kyoto University, Kyoto, Japan